

2014年度 年次報告書



特定非営利活動法人 十日町市地域おこし実行委員会

ご挨拶

日頃よりNPO法人十日町市地域おこし実行委員会をご支援頂き有難う御座います。

当会も中越大震災を機に、翌年2005年3月に発足以来10年を経過する事が出来ました。この3月、10年経過を機に池谷集落会から活動の経過をまとめた「10周年記念誌」を発刊し、また、記念イベントとして明治大学の小田切先生、JEN木山事務局長など著名な各氏からパネラーとして出席頂きシンポジウムを開催する事が出来ました。10年間の成果・教訓を整理し、情報発信する事が出来たのではと考えています。

私達は活動を開始するにあたり、過疎に直面している農村地域の一つの復興モデルとなる事を目指しましたが、それは可能な限り汎用性があり社会に普及する事が目的です。この事が多くの方々から共感を頂き多くのご支援を頂けているものと考えています。

さて、集落復興の最大の課題は先ずもって後継者です。「地元に住まない後継者は都市からの移住者で」との方針は池谷集落の始めからの考えでしたが、住まいと仕事が課題でした。しかし、新規就農者育成住宅「めぶき」の完成は目前です。この9月より入居希望者も現われており、集落の若い移住者がさらに増える見通しです。「めぶき」の建設につきましては、当初の予算を相当オーバーしてしまい、皆さまに心配をおかけしたことは反省するところです。

また、NPO法人としても農業参入が認められ、地域の農業の担い手となることができました。ご支援頂いた沢山の方々に改めて感謝申し上げます。

地域の課題では、池谷を含む14集落を範囲とする飛渡地区で農林水産省の「農村集落活性化支援事業」が認可される見通しですが、当実行委員会が飛渡地区の将来ビジョンを作成する支援をする事になります。「地域おこし」で培った経験を地域に広める機会でもあります。

最後に地方新聞45紙と共同通信社が主催する第5回地域再生大賞・特別賞を受賞致しました事をご報告し、引き続き集落の存続と地域の活性化に努める決意です。

NPO法人十日町市地域おこし実行委員会
代表理事 山本浩史

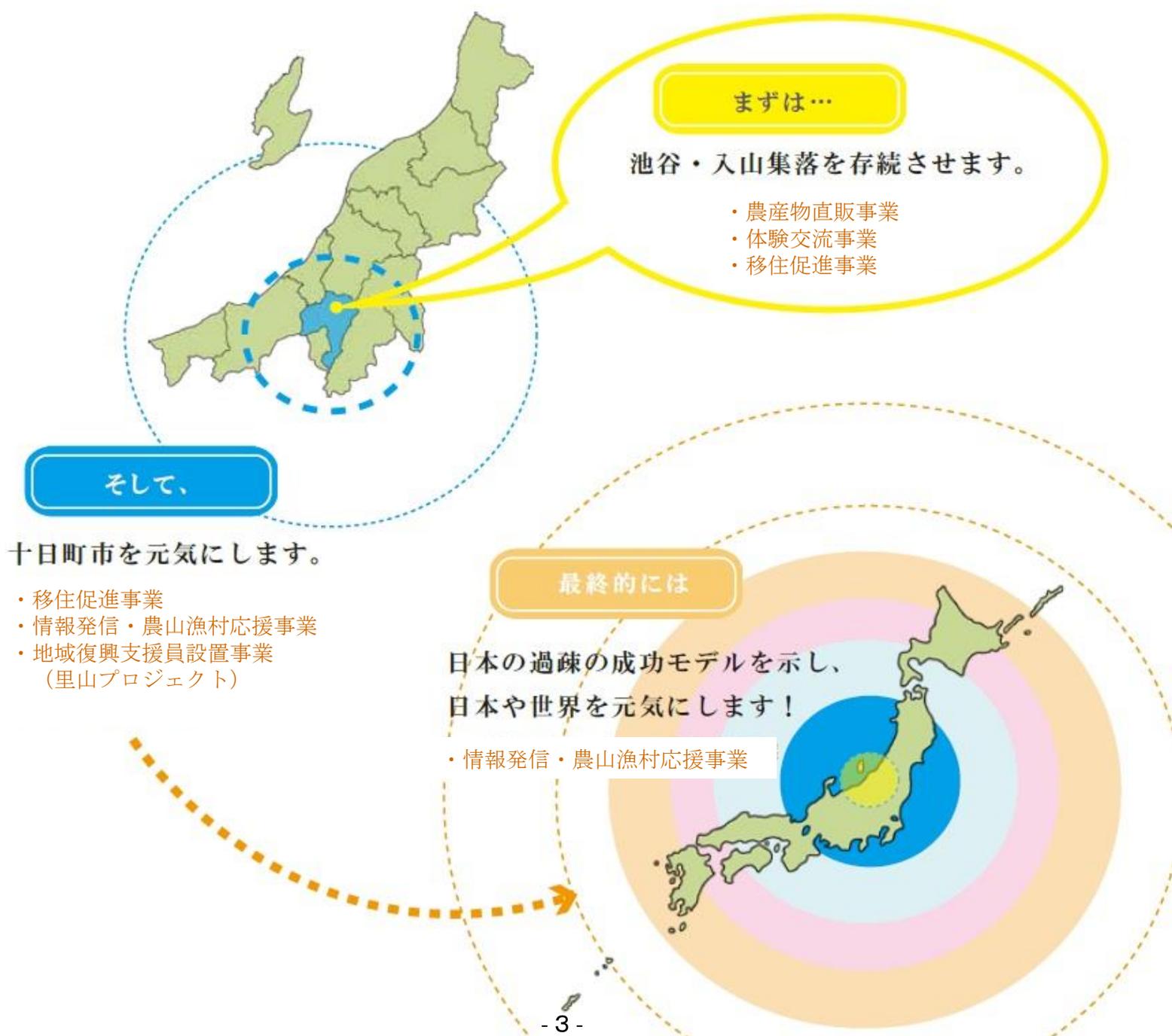
もくじ

ご挨拶・もくじ	2
私たちの活動、活動概略	3
農産物直販事業	4
体験交流事業	5
移住促進事業	6
地域復興支援員設置事業	7
情報発信・農山漁村応援事業	8
管理部門	9
特集「めぶき建設プロジェクト」	10
応援メッセージ	12
職員紹介	13
会計報告	14
団体概要	16



理念

1. 池谷・入山地区の集落と農業の継続を実現しつつ、全国の過疎の集落が抱えている集落存続問題の成功例を示す。
2. 持続可能な新しい村づくりを実践し、循環型の社会モデルを目指し100年持続させる展望を示す。
3. 地元住民だけでなく地域外の関係者も含めて、新しい村づくりを進める。
4. 相互扶助と心豊かな社会実現を目指す。



農産物直販事業

●山清水米直販

平成25年産米

新潟県の「特別栽培米」の認証を一部取得し、若米会様の「限界集落プロジェクト(郷プロジェクト)」に120俵(7,200kg)出荷しました。一般配売分としては「山清水米」10,140kg、「超特選 農薬・化学肥料不使用『山清水米』はざ架け米」(以下はざ架け米)870kgを出荷(共に完売)し、初めて一般の方への販売量が10トンを超えました。

平成26年産米

山清水米の全生産者が新潟県の「特別栽培米」の認証を取得し、若米会様に160俵(9,600kg)出荷しました。一般販売分としては、3月末時点の発送済と予約分で6,397kg、はざ架け米749kgの販売量となっています。



●農業生産

2014年度から法人組織として稲作を開始しました。稲作に必要な農業機械を中古で購入し、池谷集落の共同コンバイン組合に加入する事で、稲作に関する作業を全て自前で行えるようになりました。

春の時点では農業委員会へ農業参入手続きを行っていませんでしたので、耕地を直接借りるのではなく、作業委託を受ける形で田んぼの耕作を行いました。村のベテランから「いい稲になった」と言われるほど、稲作技術については一定の水準だったと言えます。秋には農業参入の手続きを完了し、正式に農業法人等という扱いになりました。来年度からは法人として耕地を借りることができるようになります。

●加工品開発・販売

「山清水米野菜がゆ」「十日町産のわらび・ぜんまい・うどを贅沢に使用した炊込みご飯の素」「紅はるかで作った干し芋」「妻有ポークと十日町池谷産大根で作った豚角煮大根」の4つの新商品を開発しました。

また、2013年度に開発した「山清水米白がゆ」の売上は654,066円となりました。

新商品できました！



山清水米野菜がゆ

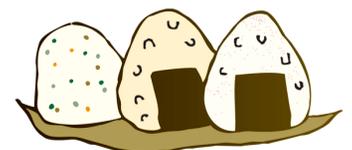


山菜炊込みご飯の素



豚角煮大根

来年度は、販路拡大・パッケージ検討・新商品の開発に取り組むとともに、原材料を池谷集落の皆さんからの調達率を上げていく方向で進めています。十日町市や池谷集落で作ったおいしい農作物が、いつでもみなさんの食卓で召し上がっていただけるよう、今後も努力していきます。



体験交流事業

2014年度は計13回のイベントを開催し、のべ参加人数は156名となりました。

田んぼへ行こう！！

7年目となる「田んぼへ行こう！！」は今年度より実行委員会単独開催で実施しました。リピーターの方が赤ちゃん連れで来てくださったり、家族の定例行事として参加していただく方もおり、小さな池谷ファンが増え、集落のみなさんも喜んでます。

飛渡地区の田んぼアートのお手伝いもしました！



山村へ行こう！

田舎暮らし体験イベント「山村へ行こう！」は、山菜スペシャルを開催いたしました。まだ雪が残る入山集落の斜面を、参加者のみなさんが果敢に上り、たくさんの山菜を収穫し、みんなでおいしくいただきました。

おうちを建てよう！ワークショップ

池谷集落に新築する農山村就農研修施設「めぶき」の建築を、十日町市の設計士グループ「StudioH5」様指導の下、ワークショップ形式で日本全国から多くの方に参加していただきました。みんなで汗をかき、頑張った後には、バーベキューなどの交流会で楽しみました。



ヨガでリフレッシュin 池谷

ヨガイベントも4年目となり、定番イベントとなりました。天候に恵まれ池谷のブナ林や屋外で、自然と一体となりヨガを楽しんでいただきました。また、地元の方向けのヨガ教室も行いました。

収穫祭

毎年開催している収穫祭には、52名の方にご参加いただきました。池谷集落のおかあさんを中心に腕ふるっていただいたごちそうを、参加者のみなさんで楽しみました。住民の踊りや、参加者の方の美声のご披露もあり、大いに盛り上がりました。

スノーバスターズ・越後雪かき道場

スノーバスターズでは、今回は雪かきの他、地元の食材を使った米粉ラーメン作りも行いました。分校の鶏で出汁を取り、山清水米の米粉で麺を作り、みんなでおいしくいただきました。またNPO法人中越防災フロンティア様と「越後雪かき道場」も共催いたしました。参加者は25名でした。

2014年度イベント一覧

実施日	イベント名	参加人数
5/3～5	山村（山菜）	3名
5/30～6/1	田んぼ（田植え）	19名
7/26～27	おうちWS①	5名
8/9～10	おうちWS②	7名
8/23～24	おうちWS③	2名
9/6～7	おうちWS④	2名
9/13～14	ヨガ	8名
9/20～21	おうちWS⑤	4名
10/3～5	田んぼ（稲刈りとはざかけ）	14名
10/17～19	田んぼ（脱穀）	6名
11/15	収穫祭	52名
1/31～2/1	越後雪かき道場	25名
2/13～15	スノーバスターズ	9名

移住促進事業

●十日町市への移住促進

十日町市役所から事業委託を受け、以下3つの取組を実施しました。

移住相談会への出展

新潟県が主催する「にいがた暮らしセミナー」等各種移住相談会に出展し、十日町市のPRを行いました。全体で70組73名の移住相談に応じ、2014年度中に3組3名の方が十日町市に移住しました。



さとナビ(移住希望者向け情報サイト)の運営

十日町市への移住・交流情報を掲載したホームページ「さとナビ」の運営管理を行い、体験交流情報、インターン受入先情報、住まい情報、仕事情報、移住相談会情報を掲載しました。

さとナビ：<http://www.tsukurou-tokamachi.jp/>

市内事業者との連携

中山間地への移住促進だけでなく、市内の事業者向けに「移住者人材採用セミナー」を実施し、移住者と十日町市内への就職情報を上手くマッチングさせるための取組みにも力を入れ始めました。



●インターンシップ受入

インターンシップ受入希望団体向け説明会を実施し、十日町市内の中山間地で活動する5団体6名の方に参加いただきました。

その後、十日町市内各地にインターンシップ受入のコーディネートを行い、インターンシップ受入地域・団体も前年の3ヶ所から8ヶ所に増えました。

【受入地域・団体】

池谷集落、結いの里、松代ハイテクファーム、浦田地区、食と農を考える飛渡の会、竹所集落、ふれあいファーム三ヶ村、中立山集落

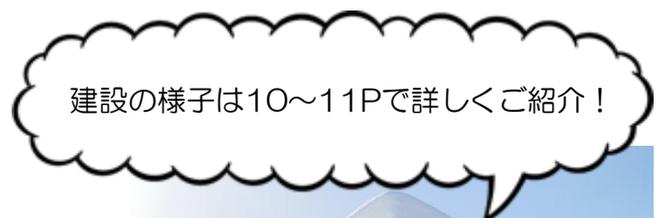
1年間が5名、1～2ヶ月間が6名、合計11名のインターン生が十日町市内で活動しました。このうち3組4名の方がインターンシップ終了後も十日町市内に住み続けています。

●住宅建設プロジェクト

新規就農者育成住宅「めぶき」の建設を行いました。春先に土地の購入代金支払いと登記を済ませ、7月から建設を開始しました。

一部材料は地元の越後杉を切って作った材料を使用しました。壁板貼りなど、職人でなくてもできる作業はワークショップ形式を取り入れ、多くの人達の手垢がついた方法で建設を進めました。11月には外装が完成し、内装も7割方完成しました。

建設資金集めも並行して行い、助成金以外にもクラウドファンディングにも挑戦しました。結果として、目標額100万円に対し、148万6000円のご支援を頂く事が出来ました。この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。入居希望者もあり、2015年の8月には完成予定です。



地域復興支援員設置事業

前年度に引き続き、十日町市役所との連携事業「地域復興支援員設置事業(通称:里山プロジェクト)」として、十日町市内各地の中山間地の活性化に向けた取り組みを行いました。

地産地消への取組

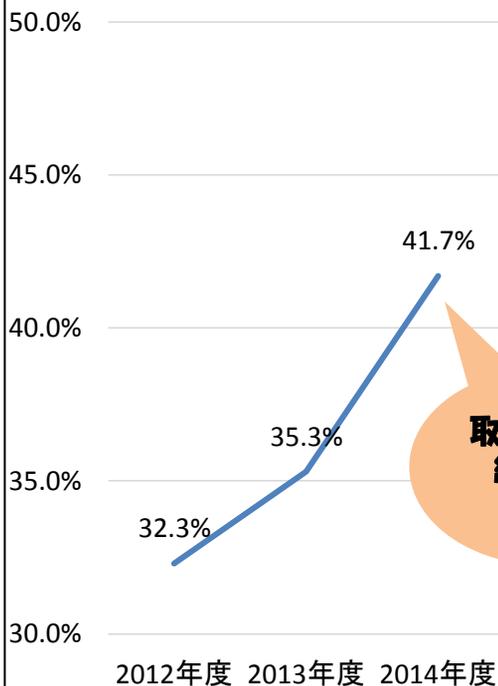
松代地域の芝峠温泉直売所や特別養護老人ホームほくほくの里等へ旬の地元産農産物の出荷支援や、2013年度から開始した学校給食の地元産野菜使用率を高めるための取組も継続して行いました。

結果としては41.7%(前年比6.4%向上)となり、取組前と比べると約10%近く向上しました。(下図参照)

数値的な結果だけではなく、学校給食の野菜作りを行う高齢者中心の地域生産団体では、会報による情報共有、講習会、共同出荷作業、親睦会などを通じて会員間での連帯を高める活動を行いました。さらに、収入に結びついた畑作が生きがい作りにつながり、活性化が進みました。



十日町市全体の年間の
地元産野菜使用率



地域おこし協力隊サポート

十日町市で活動する地域おこし協力隊の各拠点での会議や月1回行われている全体会に出席し、活動についてアドバイスをしたり、協力隊員向けの研修会の実施、先進地視察のコーディネートなど、地域おこし協力隊が活動しやすくなるよう支援を行いました。

その他の取組

イベント開催支援として、川西地域の「バイトウ」や松代地域の「冬の陣」などを支援しました。

その他の市外との交流では、世田谷棚田の会や日野市といった提携地域との交流や、越後田舎体験の受入や東下組棚田を守る会の棚田の草刈り隊の受入、まつだい歩こう会の上杉軍道イベントや松代やぶこざきの会の山菜狩りツアー、キャンパス白倉でのダッチオープンイベントやバーベキューイベントなどの十日町市内に来ていただくイベント開催の支援も行いました。

高齢者の福祉的な面の支援では、高齢者サロンやゲートボール大会などを行いました。

情報発信の面では、川西地域の観光マップの作成や松之山地域の農産物直売所のブログによる広報支援等を行いました。

松代の高齢者サロンで健康体操指導!



情報発信・農山漁村応援事業

●情報発信

視察

15団体257名の方にお越し頂きました。
衆議院総務委員会の視察の際には、現場からの意見として「地域おこし協力隊制度に関する提言」を提出しました。

日付	団体名	人数
4/19, 20	明治大学専門職大学院	8名
6/24	市野川集落再熱実行委員会 (長野県)	7名
6/27	魚沼市集落支援員	9名
7/28	衆議院総務委員会	16名
8/2	新潟県社会福祉協議会、関西学院大学	17名
8/21	島根県議会	19名
8/22	トオコン現地視察	33名
10/7	南魚沼地域振興局	18名
10/30	新発田地域振興局農業振興部	36名
11/10	魚沼市農業委員会	21名
11/13	北海道留萌管内町村議会	16名
11/17	富山県農林水産部	19名
11/26	八女市山村塾(福岡県)	5名
11/27	法政大学関司准教授一行	10名
12/8	富山県魚津市中山間地域連絡協議会	23名
	計15団体	257名

10周年記念事業

2014年は中越大震災10周年目にあたる年でした。一つの節目として新潟県中越大震災復興基金を活用し、10周年記念誌の発行と10周年記念シンポジウムを開催しました。



講演

12会場に訪れ、1455名の方に聞いて頂きました。

日付	会場名	人数
5/26, 27, 28	地域おこし協力隊初任者研修 (滋賀県)	65名
8/1	農村地域活性化活動にかかる研修(東京都)	100名
8/30	岩手県地域づくりフォーラム	80名
9/21	ふるさと回帰フェア (東京都)	150名
10/24	棚田サミット(山形県)	80名
11/19	十日町地域振興局	40名
11/25	新潟大学	7名
12/3	BOOSTER(東京都)	50名
1/20	最上地域交流者活動情報交換会(山形県)	33名
2/8	岩手県一関市藤沢町 地域づくりフォーラム	300名
2/9	地域再生大賞表彰式 (東京都)	250名
2/22	地方創生フォーラム(石川県)	300名
	計12会場	1455名

●農山漁村応援

地域の販売支援

飛渡地区(池谷集落を含む14集落からなる区域)の農業者等で組織される「食と農を考える飛渡の会」のお米販売支援を行いました。大阪の米販売業者との大口取引の話をもとめ、広く飛渡地区の各集落またがってお米を取り扱う調整を行いました。結果として500万円を超える取引となりました。

このほか、「有限会社高長醸造場」の漬物や「民宿かくら」のそばの販売等を行いました。

6次化起業支援研修

認定NPO法人ふるさと回帰支援センターより委託を受け、10月25日～2月17日にかけて6次化起業支援研修を実施いたしました。11名の方に受講頂き、農村で6次産業化をテーマとして起業するための講義や先進地視察、事業計画書作成のフォローアップを行いました。

●受賞

「第5回地域再生大賞」特別賞

地域再生大賞とは、深刻化する地域の疲弊に挑む団体を、地方新聞社と共同通信社のネットワークで取り上げ、エールを送るという褒賞です。特別賞は、独自の工夫を重ねた団体に贈られる賞です。

ご支援いただいている皆様のおかげです。
今後とも地域のために頑張ります！



●3年後の池谷を考える会

3月28日に「3年後の池谷を考える会」を行いました。2010年に「5年後の池谷を考える会」が行われてから、ちょうど5年。また集落の方向をみんなで考えようじゃないか、と池谷住民から提案があり、今回行うことになりました。

参加した住民、関係者からたくさんのアイデアが出て、「3年後の池谷像」をまとめました。

アイデアたくさん！

- ・山菜の促成栽培を行う
- ・サルナシ(こくわ)の栽培を行う
- ・農繁期には集落みんなでご飯を食べる
- ・ボランティアの同窓会をする
- ・山の古道を復活させて、トレイルマラソンをする
- ・集落内にライスセンターを作る
- ・飛渡地区で協力し合って農業
- ・猟師の育成
- ・若い移住者が結婚できるように

などなどたくさん…

●メディア掲載

新聞



2014年 4月	新潟日報
11月	毎日新聞
2015年 1月	日本農業新聞
3月	十日町新聞
	新潟日報
	など

テレビ



2014年 12月	テレビ新潟
10月	BSNIにいがた放送
2015年 3月	NHK総合
	など

雑誌他



2014年 4月	トランヴェール
5月	AFCフォーラム
12月	十日町市勢要覧
	十日町市報
	など

めざせ！ 「笑顔と若さの楽園集落」 !!!



特集 「めぶき」建設プロジェクト

空き家のない池谷集落に、集落を担う新たな移住者に来てもらうため始まった「新規就農者育成住宅“めぶき”」建設プロジェクト。「たくさんの方の手垢がついた家にしよう」とワークショップ形式を混ぜながら、自分たちでできることは自分たちで行いながら、建設してきました。現在までの様子をご紹介します！

7月



▲木材の伐採
使用する入山集落の杉を伐採！



▲「石場かち」
地鎮祭で水沢伝統芸能保存会の皆さまと「石場かち」！

8月



▲基礎作り
池谷集会所横の土地に建設開始！



▲ワークショップ
「おうちを作ろうWS」で参加者の方と部材づくり。



▲骨組みづくり
一気に家らしくなってきました。



▲骨組みづくり
古民家の材木も活用！



▲上棟式
大勢の方が餅まきに来ていただきました。



▲屋根づくり
昔とった杵柄で、橋場さん大活躍！

9月



▲ワークショップ
杉の木の壁板を、ひたすらはりまくる！



どんな家になるか、楽しみだねえ〜♪



10月



▲壁板はり
まだまだ、ひたすらはりまくる!!!

11月



▲外観完成
外観が完成しました。

12月



▲内装作業
内壁づくりをコツコツと。

1月



▲大雪
雪に追われて、一旦お休み。

2月



▲内装作業
壁板を貼ったり。様子を見に来たつぐらさん。

3月



▲内装作業
壁の塗装作業も完了!

● 「めぶき」 資金について

当初1000万円の予算でスタートした「めぶき」の建設ですが、最終的に約1470万円の費用に落ち着く予定となりました。費用が想定を超えた理由は、下記2点です。

- 1 建設地変更による追加費用
- 2 建設費の増加

1つ目の建設地変更についてですが、当初予定していた土地が登記上住宅を建設できないことが判明し、水源の関係もあり池谷集会所隣へと変更しました。この土地には以前住宅が建っており、市外の方が購入し住んでいましたが、2003年に離村しました。住宅は数年前に解体されましたが土地はその方が保有していたため、本人の希望価格200万円で購入いたしました。

2つ目は土地の変更に伴う設計変更と建築資材の高騰などにより、想定以上の建設費が余儀なくされました。

途中、約1700万円の見積もりとなりましたが、削る事が出来る部分を見直し、自分達でできる作業は極力自分達で行う事などを通じて最終的な費用は約1470万円の見込みとなっています。

資金の内訳は以下の通りです。(2015年3月31日時点)

【出資分】	
実行委員会出資	4,721,771
池谷集落出資	500,000
計	5,221,771
【寄付金】	
寄付金	5,431,624
クラウドファンディング(手数料差引後)	1,263,100
計	6,694,724
【助成金】	
越後のふるさと木づかい事業	1,825,000
十日町市新規ビジネス応援助成金	1,000,000
計	2,825,000
「めぶき」費用総額	14,741,495

「めぶき」建設にあたっては多くの方々からご心配と応援を頂きました。皆様方のお力がなければ今回の取組みはとて実現できませんでした。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。「めぶき」を活用し、今後の集落の農業の担い手を育成する事で集落存続への大きな一歩としたいと思います。

応援メッセージ

十日町市地域おこし実行委員会は、多くの支援者の方に支えられて活動しています。日頃ご支援いただいている皆様に、一言メッセージをいただきました。



十日町市役所
企画政策課
移住定住促進係
小林秀幸さん

池谷の営々と受け継がれてきた里山の暮らしや文化、人とひととの触れ合いが若者らを惹きつけて止まない。多くの人々が訪れ、その力と感性を借りて、地域が一層磨き上げられることで、新たな価値観を生んでいる。池谷での暮らし、住まう住民が「粋」で「カッコいい」と映り始めている。そして、一人、また一人と新たな若者が池谷を訪れる。



農事組合法人
ナレー二千手
代表理事
小野塚英雄さん
【里山PJ協力者】

「売れていますか?」、「あまり売れません」の会話が3年前、直売所前での小島君との初めての出会いでした。以来、直売所や学校給食といろいろ相談にのってもらっています。特にかあちゃん達に人気があって、学校給食の新しい野菜の試験栽培等で和気あいあいと話し合いや作業をしています。これからますます地域農業の発展に頑張ってくれる事を期待しています。



大津貴夫さん
【インターン受入先】

『これからの中山間地域のあり方』その問題を解くためのキーワードが、池谷にあると思います。小さな船に自分一人だけ乗り右往左往している他地域と違い、大きな船に皆が乗り、志を1つにし、前進していく。池谷集落は、素晴らしいところです。今後は、全国の中山間地域の船頭として、我々を楽園に導いてくれるでしょう。



鯨井恵理子さん
【イベント参加者】

「池谷に行きたいよう」気付けば周りにこぼしている今日この頃。ああ、あの山合いの杉林、風が吹けば田んぼの稲がさわさわと揺れて、どこかしらお米の香り、夜になれば地酒の天神灘子と、ほんとうの暗闇に広がる一面の星空。たまに息が詰まる位にはがんばる日常のなか、そういう景色と縁を持てることを幸運に思います。どうぞこれからも長く続いていきますように。はやく遊びに行きたいよう!



一木光男さん
【インターン経験者】

自分は6ヶ月のインターンを経験した者です。春先の雪どけと、入れ替わるように始まるコメ作りを体験しました。苗作り、田んぼのしたく、身体にキツイ仕事もありましたが、気持ちのいい汗と、稲の成長は、心躍るものがあります。自然の中で、心と身体が成長したのではないかと、感じたインターン生活でした。これからも、美しい棚田が次の世代に受け継がれる事を願っています。



楠井沙耶さん
【インターン経験者】

大学の春休みを利用し、インターン生として1ヶ月間池谷で過ごしました。土地に根ざして生きている、あるいは生きていこうとしている人々と関わっていくのはとても刺激的で、貴重な体験となりました。対一の人間関係と豊かな自然、おいしいごはん!こんな場所がずっと残る未来をつかっていきたい、そんな気持ちで見守っています。

職員紹介

メンバー同士のコミュニケーションを大事しながら頑張っています！



事務局

(上段左から)増田明弘、福島美佳、多田美紀
(下段左から)安藤直人(インターン)、山本浩史(代表理事)、多田朋孔(理事・事務局長)

ばっちりチームワークで、十日町を盛り上げて行きます！



里山プロジェクト

(上段左から)小山友誉(松代地域担当)、佐久間千津子(事務員)、小島信勝(松之山地域担当)
(下段左から)近藤愛己(川西地域担当)、高橋治夫(十日町地域担当)、奥平百合(地産地消推進担当)

一緒にムラづくりをしませんか

私たちは、中越大震災以降、池谷・入山集落を中心にして、「将来的には広く十日町市全域の地域おこしができるようにしたい」と目標を持ち、地域おこしの取組を行ってきました。

今後はさらに、池谷・入山集落で地に足の着いた活動を行いながら、「地方創生」のモデルとして、消滅自治体の問題に立ち向かっていきたいと考えています。私たちのような取組みを是非皆様から応援していただければ幸いです。

当団体では、活動・運営を支えていただける個人・法人の賛助会員を募集しています。

●年会費

賛助会員 3,000円(1口以上)

学生会員 2,000円(1口以上)

法人会員 10,000円(1口以上)

●会員になると

- ・年1回年次報告書をお届けします。
- ・会員向け情報紙「だんだんどうも」をお届けします。
- ・池谷分校(やまのまなびや)をイベント以外でもご利用いただけます。

●入会手続

氏名、住所、電話番号、メールアドレスをFAXまたはEメールでご連絡ください。

会費納入方法は、振込かカード支払(ネット入金)がご選べいただけます。振込先等につきましては、受付後ご連絡いたします。申込と会費納入が終わった時点で、入会とさせていただきます。

FAX 025-761-7009

Eメール chiikiokoshi@gmail.com

会計報告

会計年度 2014年4月1日から2015年3月31日
[税込](単位:円)

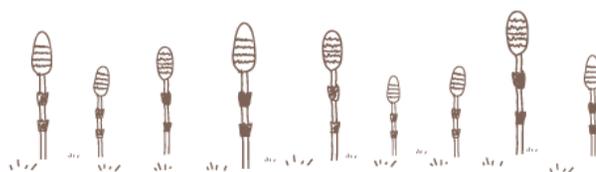
●貸借対照表

現金・預金		10,257,660
売上債権		7,144,612
棚卸資産		1,812,797
流動資産	計	19,215,069
有形固定資産		7,561,020
無形固定資産		89,580
投資その他の資産		1,057,101
固定資産	計	8,707,701
資産	合計	27,922,770
未払金		1,902,703
前受金		106,000
短期借入金		4,086,298
預り金		105,802
仮受金		350
未払法人税等		110,600
流動負債	計	6,311,753
固定負債	計	0
正味財産	計	21,611,017
負債及び正味財産	合計	27,922,770

●収支表

会費収入		431,000
寄付金		3,323,851
助成金等		19,565,696
事業収益		21,848,523
その他収益		192,025
収益	合計	45,361,095
事業費		46,524,600
管理費		5,271,319
支出	合計	51,795,919
当期正味財産増減額		-6,434,824
前期繰越正味財産額		28,045,841
次期繰越正味財産額		21,611,017

※前期繰越賞味財産額において、立替金精算により
175,938円の差異が2013年度年次報告書と生じています。



●事業別収支表

	農産物直販 事業	体験交流 事業	移住促進 事業	情報発信・ 農漁村応援 事業	地域復興 支援員設置 事業	管理部門
会費収入	0	0	0	0	0	431,000
寄付金	0	0	2,114,637	0	0	1,209,214
助成金等	189,696	0	0	0	19,076,000	300,000
事業収益	12,933,974	433,018	6,267,000	1,714,531	0	500,000
その他収益	15,498	0	0	0	508	176,019
収入 合計	13,139,168	433,018	8,381,637	1,714,531	19,076,508	2,616,233
事業費	12,960,079	267,372	13,839,868	878,325	18,578,956	0
管理費	571,262	620,940	0	248,374	500,000	3,330,743
支出 合計	13,531,341	888,312	13,839,868	1,126,699	19,078,956	3,330,743
当期経常増減額	-392,173	-455,294	-5,458,231	587,832	-2,448	-714,510

※分校維持管理事業、その他事業は管理部門に統合しました。

監査報告書

平成 27 年 6 月 1 日

特定非営利活動法人
十日町市地域おこし実行委員会
理事長 山本 浩史 様

監事 海津 一義



私は、特定非営利活動促進法第 18 条の規定に基づき、特定非営利活動法人十日町市地域おこし実行委員会の平成 26 年度(平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで)の業務監査及び会計監査を行いました。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問をしました。また、財産の状況に関する監査に当たっては、財務諸表等(活動計算書、貸借対照表、財務諸表の注記及び財産目録)と帳簿や証拠書類等との照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行いました。

監査の結果、理事の業務執行は、法令、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないことが認められました。

また、法人の財産の状況は、NPO 法人会計基準に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められました。

以上のとおり報告致します。



設立年月 2005年3月(2012年4月NPO法人化)
事務所 〒949-8613 新潟県十日町市中条庚939-2 やまのまなびや
TEL/FAX 025-761-7009
E-MAIL chiikiokoshi@gmail.com
URL <http://www.iketani.org>

事業対象分野:まちづくりの推進、農山漁村又は中山間地域の振興、学術・文化・芸術の振興、環境の保全、福祉の推進、経済活動の活性化、以上の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡・助言又は援助

主な協力機関・団体・企業(50音順)

機関： 新潟県、十日町市
団体： 公益社団法人中越防災安全推進機構
特定非営利活動法人棚田ネットワーク
特定非営利活動法人中越防災フロンティア
特定非営利活動法人都岐沙羅パートナーズセンター
特定非営利活動法人まちづくり学校
認定NPO法人JEN
認定NPO法人新潟NPO協会
認定NPO法人ふるさと回帰支援センター
企業： 生産者株式会社
キューピーマッピングギフト「QPeace」

理事 代表理事 山本浩史
副代表理事 曾根一真
理事 曾根イミ子 曾根武 曾根藤一郎 曾根直美
庭野功 庭野ヒサ 濱坂都 三上泰 靱山旭太
(50音順)
理事・事務局長 多田朋孔
監事 海津一義

会員数 84名 (2015年3月31日現在)